

ふいんてっく通信

～ Vol.3 ～

キャッシュレス先進国ではマイクロチップ決済！？

Fintechとは、金融(Finance)と技術(Technology)を組み合わせた造語です

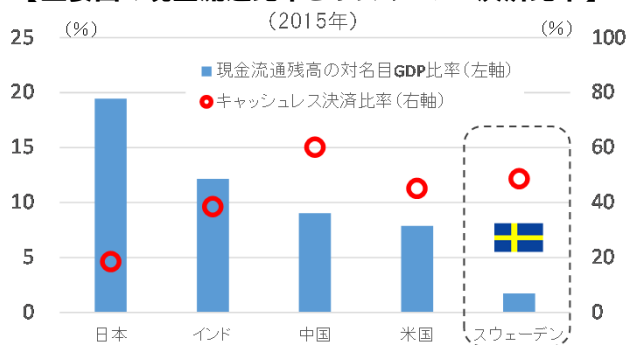
nikko am
fund academy

中央銀行が“将来、国から現金が消える”と予測するほど、完全キャッシュレス社会に向けてさまざまな取り組みを積極的に行なっているスウェーデン。最近では、金融当局が銀行に対して消費者への影響を見極めるまで現金の取り扱いを要請するほどに、キャッシュレス化への流れが急速に進んでいます。今回は、スウェーデンのキャッシュレス化への取り組みをご紹介します。

■ キャッシュレス先進国「スウェーデン」

現金を取り扱わない銀行、現金決済ができない家電量販店やパン屋などが散見されるスウェーデンは、国を挙げてキャッシュレス化に取り組んでいます。このことは、同国の現金流通高の対名目GDP比率が1.7%と低く、キャッシュレス決済比率は48.6%と相対的に高いことが、裏付けていると思います(下図)。

【主要国の現金流通比率とキャッシュレス決済比率】



出所：経済産業省、日銀の情報を基に日興アセットマネジメントが作成
※上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

同国でキャッシュレス化が進展している理由は、1990年代初頭のバブル崩壊で金融危機に陥ったことから、金融機関中心に生産性向上を目指したことや、冬季の現金輸送の困難さの解消、現金強盗対策などにあったようです。

デジタル通貨発行を視野に技術インフラへの投資に注力する同国では、2012年に主要銀行が共同開発した電子決済システムを搭載したスマートフォンアプリ「Swish(スウィッシュ)」が提供開始され、総人口(約1,000万人超)の約7割(2019年1月時点)が利用しています。使い方は簡単で、電話番号など支払先の情報や金額を入力するだけで送金が完了し、個人間のお金のやり取りやショッピングでも利用できます。

■ 端末に手をかざせば決済完了！？

スウェーデンでは、カードやスマートフォンではなく、生体認証でもない、自分の手の皮膚のすぐ下に埋め込んだ極小のマイクロチップを端末などにかざして決済する人が約4,000人(2018年末)※いると伝えられています。このチップには個人情報やクレジットカード情報が記録されており、自販機で飲み物を買うときはもちろんのこと、鉄道の乗車券や車内検札での確認、カードキーなどとしても利用されています。※世界で1万人が利用しているといわれています。

たびたび情報セキュリティの問題などが指摘されていますが、チップの埋め込みを広めた同国のBiohax社によれば、GPS搭載はなく、特別の機器やアプリに触れるくらいまで近づけた時にだけ反応するので、情報は盗まれにくいといいます。

現金を扱わない銀行や店舗が増えたがために不便を感じる、といった声はありますが、カードやチケット、鍵を忘れても、体にマイクロチップが埋め込まれてさえいれば心配無用、といった時代がすぐそこまで来ているのかもしれません。

銀行口座を持っていない層への対応など、世界的な課題は少なくありませんが、時の経過とともにその課題が克服され、消費者の暮らしを便利にするキャッシュレス化は進んでいくとみられます。



※イラストはイメージです

上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有、非保有、および将来の個別銘柄の組み入れまたは売却を示唆するものでもありません。

■当資料は、日興アセットマネジメントがフィンテックに関する情報についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。